

1. 京都府のがん登録の歴史

京都府の地域がん登録は、昭和54年に開始された京都消化器医会「胃がんの実態調査」を原点として、昭和57年より京都府医師会が全がん登録を開始し、昭和63年より京都府の事業を京都府医師会が受託する形式となった。

医師会の呼び掛けにより病院だけでなく多くの診療所も参加して継続されてきた届出は、当初は年間5千件程度であったものが徐々に増加し、平成17年には1万



京都府医師会館

件を突破、その後、院内がん登録が整備されたことなどの追い風を受けて、平成22年には2万件を越す登録がなされた。

また、京都府では長らく独自の届出様式と登録項目を用いてきたが、第3次対がん10か年総合戦略事業等で行き組まれた標準化と精度向上の取り組みなどを踏まえ、2010年症例より標準登録様式と標準データベースシステムを導入し、2014年2月には2010年症例の報告書が完成した。

2. 登録室紹介

京都府の登録室は、京都府医師会館の事務所に設けられている。京都府医師会の担当理事（医師）が管理者となり、事務担当1名（常勤）、実務担当2名（非常勤）により運営されてきた。実務担当2名は登録歴10年以上のベテランで、コーディングや入力作業を円滑に実施している。近年は登録件数が急増したため、臨時的に非常勤職員を1名増員して対処しているが、今後、恒常的な人員体制の強化が望まれる。



京都府がん登録室

3. がん登録事業委員会

京都府において地域がん登録事業に関する諸問題は、京都府医師会のがん登録事業委員会において協議されている。委員会はがん診療連携拠点病院などの医師12名と京都府の担当者が参加して隔月で開催され、報告書の作成や個人情報の保護などについて協議を行ってきた。最近では、昨年「がん登録等の推進に関する法律」が成立したことを受けて、全国がん登録への対応が主要議題となっている。

4. 今後の課題

京都府において、地域がん登録事業の課題としてあげられているものを列挙すると以下のとおりである。

- (1) 報告書作成期間の短縮／遡り調査の実施
- (2) 安全管理体制の強化
- (3) 専用ホームページの作成
- (4) データに基づく行政や関係団体への積極的提案
- (5) がん検診との連携
- (6) 人員体制の補強

5. 最後に

これまで独自の路線で運営されてきた京都府の地域がん登録は、今、標準化の波にさらされ、続いて全国がん登録の渦に飲み込まれようとしています。今後、大きな転換期を迎える地域がん登録事業を、円滑に次のステージへ進ませていきたいと考えておりますが、まだまだ情報と準備が不足しておりますので、何とぞ各県登録室や地域がん登録全国協議会のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

京都府

(一社) 京都府医師会 地域医療1課
田中 秀和